

2011/03/01 JRMNアウトリーチ活動

2010 知の市場共催講座開講報告

(社)日本リスクマネージャネットワーク(JRMN)

代表理事 宮崎隆介

1. 教育活動の趣旨

大阪大学の「環境リスク管理のための人材養成」プログラム修了生(リスクマネジャ)有志が「社会の要請に応じてリスクマネジメントの普及に取り組み、リスク事象に関する調査研究を行うとともにリスクマネジャとしての資質を磨き、社会の安全、安心の向上に資することを目的」(定款第3条)として設立した組織。(現在会員数 42名)

2009年度の知の市場の講座(東京開催)に当会の会員が参加し、増田会長の話に触発され、当会でも大阪で知の市場の活動を「リスクマネジメントの普及」という会の目的に沿うものとしてアウトリーチ活動の位置づけで取り組むこととした。

2. 2010年度開講実績

早稲田大学規範科学総合研究所との共催で大阪で3講座を開講

科目名	応募者	受講者	平均出席率
化学物質総合評価1(jk111)	14	14	79.1%
防疫薬総合管理(jk131b)	16	15	87.9%
環境基礎論(jk454)	11	11	84.2%

科目名	受講者	修了者数	修了率
化学物質総合評価1(jk111)	14	9	64.3%
防疫薬総合管理(jk131b)	15	—	—
環境基礎論(jk454)	11	—	—

3. 講座の特徴

(1) 化学物質総合評価1

発がん物質のリスク評価手法の歴史と具体的方法の講義で、大学院レベルの内容である。「リスクマネージャ」としての継続教育(CPD)に最適ということで会員を含めリスクマネージャ5名が受講した。

(2) 防疫薬総合管理

我々の日常生活でおなじみの殺虫剤をテーマに研究者自らが講義するもので、社内研修の一環として企業からの集団受講が多かった。

(3) 環境基礎論

開講機関である日本リスクマネージャネットワークの会員活動の一環として、多くが自分たちの仕事や活動をベースにしてテキストを作成した。

15名の会員が参加し、1講義ずつ担当し、会の結集を図ることが出来た。

4. 課題

1)「化学物質総合評価1」の受講一修了をリスクマネージャ(日本リスク研究学会認定資格)の継続教育イベントとして採用を働きかける。

2)「環境基礎論」のテキストの充実

準備期間がなく、走りながら考えたところがあり、2010年度の経験を踏まえて2011年度のテキストの充実を図る。

また、会員の結集を図る観点や状況の変化で講師の継続できない会員もいることから、新しい講師を募ること。

3) 講座開講場所の確保

現在使用している会場(使用料 無料)が2012年度以降使用できるかどうか不透明であり、2011年度中の新しい会場の確保が大きな課題である。

終

